

各 位

三重県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予報第4号

ページ

1. 向こう1か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	13
5. 気象のデータ	14
6. おしらせ	16

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう1か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、斑点米カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。出穂期以降の防除を徹底してください。セジロウンカの発生量は**多**と予想されます。特に普通期栽培では発生に注意してください。トビイロウンカの発生量は**やや多**と予想されます。早期発見に努めましょう。白葉枯病、イネクロカメムシ、ツマグロヨコバイの発生量は**平年並**と予想されます。紋枯病の発生量は**やや少**と予想されます。穂いもちの発生量は**少**と予想されます。

ダイズでは、吸実性カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。開花期以降の薬剤散布を徹底してください。ハスモンヨトウの発生量は**やや多**と予想されます。今後の発生状況に注意して防除してください。コガネムシ類の発生量は**平年並**と予想されます。紫斑病の発生量は**やや少**と予想されます。

2) 果樹

カンキツでは、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。寄生果率 10%になった時を目安に防除を実施してください。黒点病、かいよう病(温州、中晩柑)、ミカンハダニの発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通では、カメムシ類の発生量は**多**と予想されます。飛来が長期化する

可能性があるため注意してください。

3) 茶

チャでは、チャノミドリヒメヨコバイの発生量は**多**と予想されます。発生状況に応じて、新芽の開葉初期に防除してください。カンザワハダニ、チャノコカクモンハマキの発生量は**平年並**と予想されます。炭疽病、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**平年並**と予想されます。

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

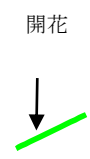
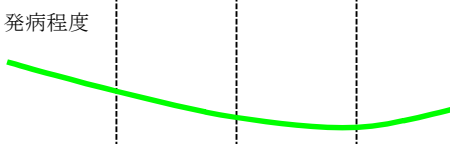
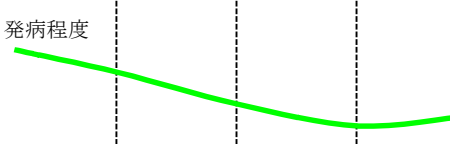
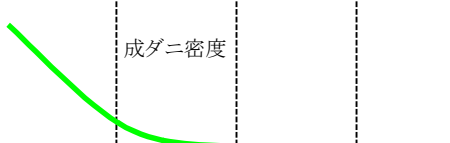
ホームページ <http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

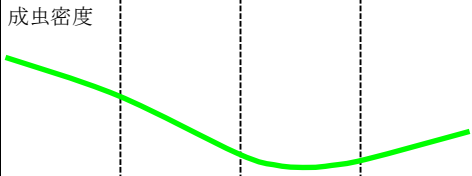
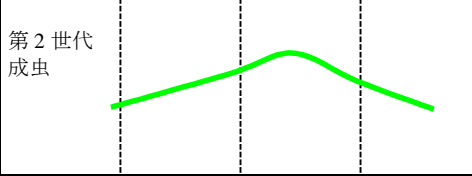
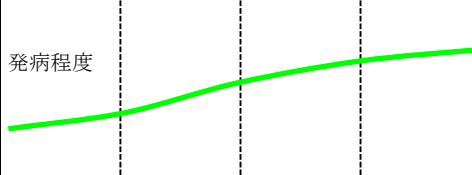
2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						7月		8月		
						下旬	下旬	中旬	下旬	
イネ	穂いもち	—	少	小	普通		<ul style="list-style-type: none"> 1) 葉いもちが上位葉で発生している圃場では、感染の恐れがあります。発生状況に注意してください。 2) これから出穂期となる圃場において、薬剤散布する場合は、出穂始めから穂揃い期に実施してください。 3) 特に作期の遅い圃場や、いもち病に弱い品種は、適期防除を徹底してください。 			
	紋枯病	—	やや少	中	低		<ul style="list-style-type: none"> 1) 高温多湿条件で発病が助長されます。 2) 多肥、過繁茂の圃場では発生しやすくなります。 3) 薬剤散布は出穂7～10日前に実施してください。 			
	白葉枯病	—	平年並	小	低		<ul style="list-style-type: none"> 1) 常発地では、台風や集中豪雨の直後に薬剤散布してください。 2) 「みえのゆめ BSL」は耐病性の弱い品種なので注意が必要です。 			
	斑点米カメムシ類	—	多	中	高		<ul style="list-style-type: none"> 1) 病害虫発生予察注意報第4号(令和6年7月3日発表)。 2) 本田防除の薬剤散布は、出穂直後とその10日後に実施してください。 3) 広域での一斉防除が効果的です。 4) 周囲よりも出穂の早い水田および遅い水田では、被害が集中するので防除を徹底してください。 			
	イネクロカメムシ	—	平年並	中	普通		<ul style="list-style-type: none"> 1) 発生圃場では、今後出すくみ穂や白穂被害が目立つようになります。 2) 常発地で薬剤散布する場合は、株元までかかるように行ってください。 			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						7月	8月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	ツマグロヨコバイ	—	平年並	大	低	成虫密度				1) 9月上旬までに収穫する圃場では、実害はほとんどありません。
	セジロウンカ	—	多	中～大	低	成虫密度				1) 株元を注意して観察しましょう。葉鞘が黄変したり、成虫や幼虫が多発している場合は、被害が発生する可能性があるため、早急に防除してください。
	トビイロウンカ	—	やや多	小	低	成虫密度				1) 株元を注意して観察しましょう。葉鞘が黄変したり、成虫や幼虫が多発している場合は、被害が発生する可能性があるため、早急に防除してください。
ダイズ	紫斑病	—	やや少	小	普通			発病程度		1)これから播種する圃場では、種子消毒を徹底してください。 2) 莢が形成され始めたら、薬剤散布をしてください。
	コガネムシ類	—	平年並	中	普通	成虫密度				1) 通常は防除の必要はありませんが、多発する場合は加害初期に防除してください。 2) ヒメコガネとドウガネブイブイは夜行性の種のため、夕方に薬剤散布すると効果的です。
	ハスモンヨトウ	—	やや多	中	普通			被害量		1) 白変葉を目印として早期発見に努め、若齢幼虫期に防除してください。 2) 発生量が急増することがありますので、防除所ホームページにおいて、フェロモントラップでの誘殺状況に注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						7月	8月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	多	大	高					<ol style="list-style-type: none"> 1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。 2) 薬剤散布は、9月中旬(開花 20 日後・莢伸長期)と 10 月上旬(開花 40 日後・子実肥大中期)の 2 回散布が効果的です。 3) 遅くとも、9 月下旬(開花 30 日後・子実肥大初期)までに 1 回目の薬剤散布をしてください。 4) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。 5) エチプロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。
カンキツ	黒点病	—	平年並	小	普通				<ol style="list-style-type: none"> 1) 薬剤散布を定期的実施し、8 月下旬まで感染防止に努めてください。 2) 枯枝は感染源となるので、切除に努めてください。 3) 薬剤散布後、積算で 200mm 以上の降雨があれば 2 回目の防除を実施してください。 	
	かいよう病	—	温州平年並 中晩柑平年並	温州小 中晩柑中	温州低 中晩柑普通				<ol style="list-style-type: none"> 1) 果実・夏枝に病斑が見られる圃場では、発病した枝・葉・果実を除去し、薬剤防除を行ってください。 2) 防風対策に努め、台風の接近が予想される場合には、直前に防除してください。 3) 高接樹や幼木については、ミカンハモグリガの防除も徹底してください。 	
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通				<ol style="list-style-type: none"> 1) 1 葉当りの雌成虫寄生数が 0.5～1.0 頭程度を目安に防除してください。 2) 高温により活動が停滞する時期ですが、圃場での発生状況をよく確認し、多発している場合は防除してください。 3) 薬剤散布は葉裏にかかるよう、丁寧に散布してください。 4) 薬剤抵抗性の発達を回避するため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。 	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						7月	8月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 寄生果率 10%になった時を目安に防除を実施してください。 2) 7月以降は寄生部位が果頂部に移ります。
果樹共通	カメムシ類	—	多	大	高					<ol style="list-style-type: none"> 1) 病害虫発生予察注意報第5号(令和6年7月16日発表)。 2) 圃場内を観察し、飛来が認められたら防除を実施してください。 3) 圃場(特にナシ、カキ)によっては局所的に飛来してきます。過去に発生が多かった圃場周辺では注意してください。 4) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると袋の上から加害されることがあります。
チャ	炭疽病	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 感染源は旧葉、感染するのは新芽の上位葉で、新芽生育期に降雨が続くと発生が多くなります。 2) 防除時期は1~2葉展開期です。 3) 整枝による病斑葉の刈り落としも防除効果があります。ただし、葉層の確保充実も考慮してください。 4) 薬剤耐性菌が出現しやすいため同一系統の薬剤の連用は避けてください。
	カンザワハダニ	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 発生が少なければ防除の必要はありません。 2) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	多	大	普通					<ol style="list-style-type: none"> 1) 新芽の先が褐変し、ひどいときは芽が硬化し発育が停止します。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 新芽の開葉初期に防除してください。 4) 一斉防除が効果的です。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						7月	8月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通	成虫密度		1) 萌芽期に加害されると芽の成長が止まり、褐変枯死する場合があります。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 新芽の萌芽～開葉初期に防除してください。 4) 一斉防除が効果的です。		
	チャノコカクモンハマキ	—	平年並	小	普通	第2世代成虫		1) 若齢幼虫期に防除してください。防除適期は成虫発生ピークから7日～10日後頃です。 2) 病害虫防除所ホームページにフェロモントラップ誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。		
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通	発病程度		1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、圃場外に持ち出して適切に処分してください。 2) 薬剤による予防防除を徹底してください。降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 3) 耐性菌が出現しやすいため同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう、丁寧に灌水を行ってください。		

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	穂いもち	—	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(—)</p> <p>2) 巡回調査圃場(7月第1~2週)では、葉いもちの発生圃場率8.0%(平年10.8%)とやや少、発病度0.36(平年0.74)と少(—)</p> <p>3) 一般圃場では、葉いもちの発生量は無~やや少(概して少)(—)</p> <p>考察: 葉いもちの発生量はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮して穂いもちの予想発生量は少と考えます。</p>
	紋枯病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(+)</p> <p>2) 昨年8月の巡回調査結果から、圃場残存菌核数はやや少と予想(—)</p> <p>3) 巡回調査圃場(7月第1~2週)では、発生圃場率0.47%(平年1.4%)と少、発病株率0.09%(平年0.12%)とやや少(—)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無~やや少(概して少)(—)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えられますが、気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。</p>
	白葉枯病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(7月第1~2週)では、発生圃場率0%(平年0%)と平年並に少(±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は無(—)</p> <p>考察: 現状の発生量は平年並に少と考えられ、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	斑点米カメムシ類	—	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(+)</p> <p>2) 予察灯での誘殺数は、水田・松阪市(4月第1半旬~7月第2半旬)ではイネカメムシ137頭(平年7.3頭)、ミナミアオカメムシ63頭(平年22.7頭)といずれも多、アカスジカスミカメ110頭(平年88.8頭)とやや多(+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(7月第1~2週)では、すくい取りによる発生地点率はホソハリカメムシ23.2%(平年13.5%)、クモヘリカメムシ20.0%(平年7.3%)といずれも多、シラホシカメムシ類9.6%(平年7.6%)とやや多、アカスジカスミカメ24.8%(平年28.8%)とやや少、アカヒゲホソミドリカスミカメ8.0%(平年10.6%)と少。すくい取り成虫数は、ホソハリカメムシ0.50頭(平年0.30頭)、クモヘリカメムシ1.07頭(平年0.38頭)といずれも多、シラホシカメムシ類0.11頭(平年0.10頭)と平年並、アカスジカスミカメ1.56頭(平年2.13頭)とやや少、アカヒゲホソミドリカスミカメ0.18頭(平年0.29頭)と少(+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は中~やや多(概してやや多)(+)</p> <p>考察: 現状の発生量はやや多と考えられ、今後の気象条件を考慮して予想発生量は多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネクロカメムシ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(4月第1半旬～7月第2半旬)では、誘殺数は、水田・松阪市4頭(平年10.9頭)と少、畑・松阪市67頭(平年121.1頭)と少(－)</p> <p>2) 巡回調査圃場(7月第1～2週)では、発生圃場率10.8%(平年9.7%)とやや多、被害株率0.85%(平年0.62%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無～やや多(概して少)(－)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況から現在の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(6月第1半旬～7月第2半旬)では、誘殺数は、紀北町21頭(平年7.4頭)、御浜町39頭(平年16.9頭)といずれも多、伊賀市14頭(平年11.2頭)とやや多、畑・松阪市36頭(平年704頭)と少(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(7月第1～2週)では、発生圃場率20.8%(平年22.0%)、払い落とし成幼虫数0.69頭(平年0.71頭)といずれも平年並(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は無(－)</p> <p>考察: 予察灯、巡回調査の結果から現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	セジロウンカ	—	多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(6月第1半旬～7月第2半旬)での誘殺数は、水田・松阪市22頭(平年0.5頭)、畑・松阪市118頭(平年10.4頭)、伊賀市29頭(平年1.5頭)といずれも多、紀北町0頭(平年1.3頭)、御浜町0頭(平年9.8頭)といずれも少(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(7月第1～2週)の払い落とし調査では、発生圃場率5.7%(平年1.3%)と多(+)</p> <p>考察: 現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>
	トビイロウンカ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(6月第1半旬～7月第2半旬)では、畑・松阪市0頭(平年1.8頭)、伊賀市0頭(平年0.7頭)、紀北町0頭(平年1.3頭)、御浜町0頭(平年0.6頭)といずれも少(－)</p> <p>2) 同時に飛来する可能性が高いと考えられるセジロウンカの発生量は多(+)</p> <p>考察: セジロウンカの発生状況を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ダイズ	紫斑病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(±)</p> <p>2) 昨年の巡回調査圃場では、紫斑粒の発生率0.1%(平年0.3%)とやや少(－)</p> <p>考察: 昨年の紫斑粒発生状況はやや少と考えられ、今後の気象条件を考慮し、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	コガネムシ類	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市、4月第1半旬～7月第4半旬)では、誘殺数はドウガネブイブイ 390頭(平年 200.4頭)、ヒメコガネ 121頭(平年 64.8頭)といずれも多、アオドウガネ 497頭(平年 470.4頭)とやや多(+)</p> <p>3) 県予察圃フェロモントラップ(松阪市、5月上旬～7月中旬)では、誘殺数はドウガネブイブイ 27頭(平年 41.3頭)とやや少、マメコガネ 0頭(平年 41.1頭)、ヒメコガネ 1頭(平年 4.5頭)といずれも少(-)</p> <p>考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハスモンヨトウ	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(+)</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ(松阪市、6月第4半旬～7月第3半旬)では、誘殺数は 527頭(平年 422.2頭)とやや多(+)</p> <p>考察:現状の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>
	吸実性カメムシ類	—	多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(+)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市、6月第4半旬～7月第3半旬)では、誘殺数は、ミナミアオカメムシ 1,584頭(平年 111頭)、イチモンジカメムシ 183頭(平年 57頭)、クサギカメムシ 876頭(平年 113頭)といずれも多(+)</p> <p>考察:現状の発生量は多と考えられ、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は多と考えます。</p>
カンキツ	黒点病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(±)</p> <p>2) 県予察圃(御浜町、7月中旬、興津早生、無防除)では、果実発病度 32.3(平年 48.9)と少(-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(7月第1～2週)では、果実発病度 0.03(平年 0.44)と平年並の傾向(±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少～平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (—) 2) 県予察圃(御浜町、7月中旬、新甘夏、無防除)では、発病葉率 23.1%(平年 2.2%)と多、発病果率 50.8%(平年 6.5%)と多 (+) 3) 巡回調査圃場(7月第1~2週)では、温州みかんは発病葉率 0.57%(平年 0.03%)と多、発病果率 0%(平年 0%)と平年並に少、中晩柑は発病葉率 4.0%(平年 4.5%)と平年並、発病果率 0.3%(平年 0.5%)と平年並の傾向 (温州+、中晩柑±) 4) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並) (±) <p>考察:現状の発生量は温州みかんではやや多と考えられますが今後の気象状況を考慮して予想発生量は平年並と考えます。中晩柑では現状・予想発生量はともに平年並と考えます。</p>
	ミカンハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (—) 2) 県予察圃(御浜町、7月中旬、興津早生)では、100 葉当り寄生頭数は、無防除区で 4.4 頭(平年 4.4 頭)と平年並、慣行防除区で 0 頭(平年 6.4 頭)と平年並の傾向 (±) 3) 巡回調査圃場(7月第1~2週)では、新葉における寄生葉率 10.3%(平年 4.8%)と多、寄生頭数 0.97 頭/葉(平年 0.18 頭/葉)と多 (+) 4) 一般圃場では、平年並 (±) <p>考察:現状の発生量は一般圃場を重視して平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1 か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (+) 2) 県予察圃黄色粘着トラップ(御浜町、7月上旬、ネーブル、無防除)では、誘殺数 0.4 頭/日(平年 2.4 頭/日)と少 (—) 3) 県予察圃(御浜町、7月中旬、ネーブル、無防除)では、100 果当り寄生虫数 0 頭(平年 4.4 頭)とやや少の傾向 (—) 4) 巡回調査圃場(7月第1~2週)では、被害果率 0.1%(平年 0.6%)と平年並の傾向 (±) 5) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概してやや多) (+) <p>考察:現状の発生量は一般圃場を重視してやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	—	多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 予察灯(御浜町、7月1～10日)では、誘殺数は、チャバネアオカメムシ 22,755 頭(平年 2,692 頭)、ツヤアオカメムシ 227 頭(平年 12 頭)といずれ也多 (+) 2) 予察灯(畑・松阪市、6月第4半旬～7月第3半旬)では、誘殺数は、チャバネアオカメムシ 3,142 頭(平年 795.5 頭)、ツヤアオカメムシ 856 頭(平年 239.8 頭)、クサギカメムシ 876 頭(平年 112.6 頭)といずれ也多 (+) 3) フェロモントラップ(6月第2週～7月第1週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で 2,922 頭(平年 1,197 頭)、中間地(津市白山町二本木)で 2,848 頭(平年 1,547 頭)、平地地(松阪市嬉野川北町)で 902 頭(平年 207 頭)といずれ也多 (+) 4) 巡回調査圃場(7月第1～2週)では、カンキツ圃場での叩き落とし虫数 0.08 頭(平年 0.02 頭)と多 (+) 5) 一般圃場では、発生量は多 (+) <p>考察:現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>
	炭疽病	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (±) 2) 巡回調査圃場(7月第1週)では、発病葉数 0 枚/m²(平年 0.6 枚/m²)と少 (-) 3) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察:現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。</p>
	カンザワハダニ	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (-) 2) 県予察圃(亀山市、6月中旬～7月上旬)では、寄生葉率 1.7%(平年 1.2%)と平年並、寄生頭数 0.08 頭/葉(平年 0.04 頭/葉)と平年並 (±) 3) 巡回調査圃場(7月第1週)では、寄生葉率 0.7%(平年 1.6%)とやや少、寄生頭数 0.007 頭/葉(平年 0.08 頭/葉)とやや少、発生圃場率 36%(平年 23.3%)とやや多 (±) 4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-) <p>考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想 (±) 2) 県予察圃黄色粘着トラップ(亀山市、6月第2半旬～7月第1半旬)では、捕殺数 259 頭(平年 72 頭)と多 (+) 3) 巡回調査圃場(7月第1週)では、叩き落とし虫数 2.2 頭(平年 2.1 頭)と平年並 (±) 4) 一般圃場では、発生量は多 (+) <p>考察:現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。</p>

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(±)</p> <p>2) 県予察圃黄色粘着トラップ(亀山市、6月第2半旬～7月第1半旬)では、捕殺数473頭(平年943頭)と平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(7月第1週)では、叩き落とし虫数0.3頭(平年2.8頭)と少(－)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少(－)</p> <p>考察:現状の発生量はやや少と考えられ、一般圃場の発生量を重視して予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(±)</p> <p>2) 県予察圃黄色粘着トラップ(亀山市、6月第2半旬～7月第1半旬)では、誘殺数1,472頭(平年1,782頭)と平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(7月第2週)では、ハマキムシ類巻葉数0枚/m²(平年1.0枚/m²)と少(－)</p> <p>4) 一般圃場では、ハマキムシ類の発生量は平年並(±)</p> <p>考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	炭疽病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(7月18日発表)によると、気温は高く、降水量はほぼ平年並の予想(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(7月第1～2週)では、発病株率1.0%(平年0.02%)と多(+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少～平年並(概してやや少)(－)</p> <p>考察:現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量は平年並と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感じることがあります。

		平年値 ↓					
度数		10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価		少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」「平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の 3 段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除が必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう 1 か月の予報ですが、その前後を合わせて 40 日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう 1 か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

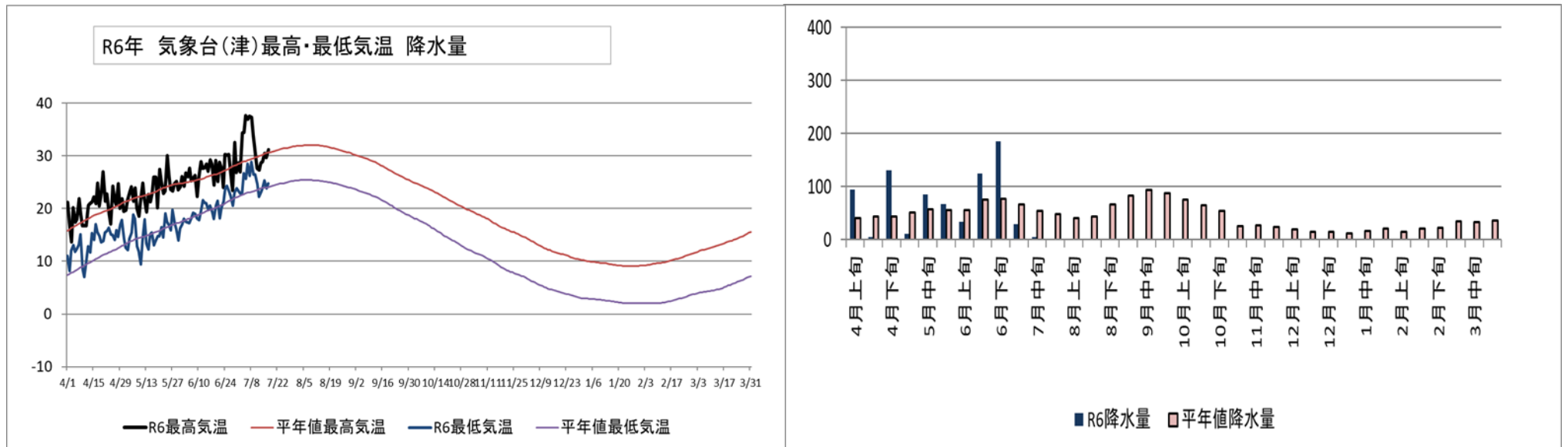
東海地方 1 か月予報 (2024 年 7 月 18 日 名古屋地方気象台発表)

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

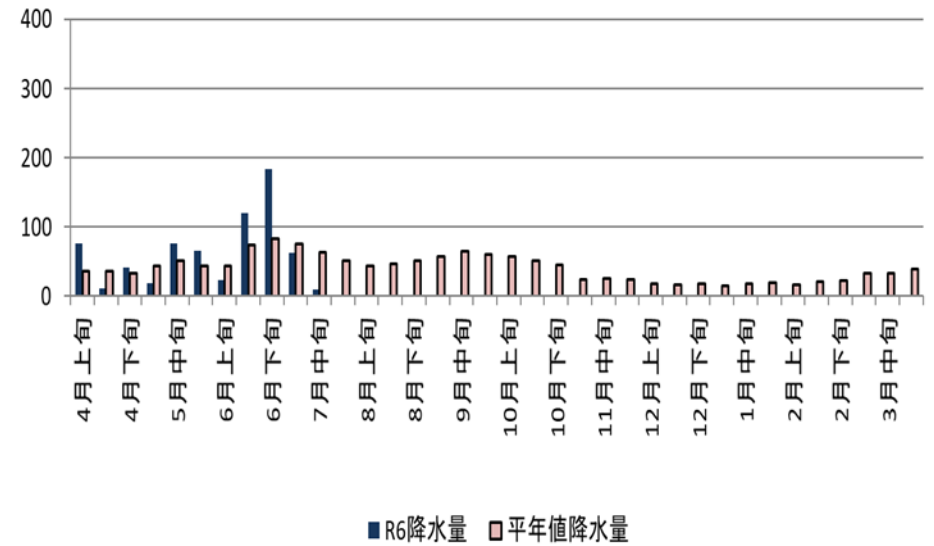
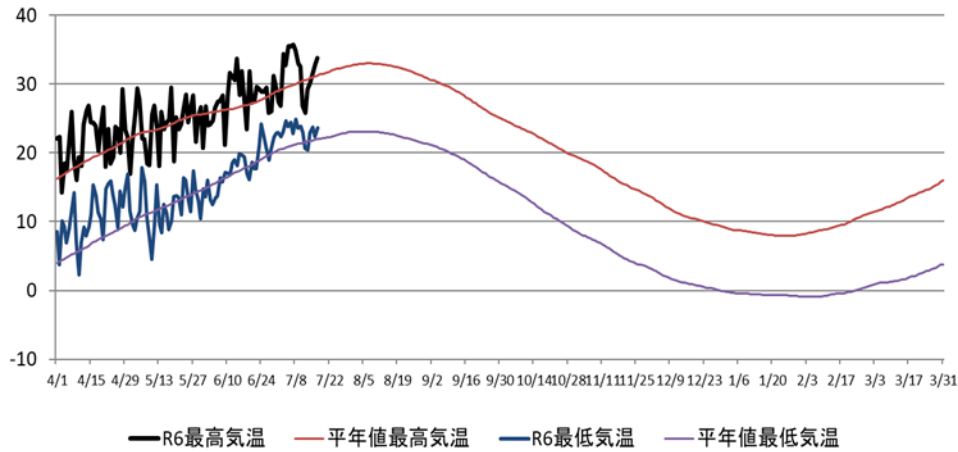
特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

1 週目 7 月 20 日～ 26 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
2 週目 7 月 27 日～ 8 月 2 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
3～4 週目 8 月 3 日～ 8 月 16 日	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

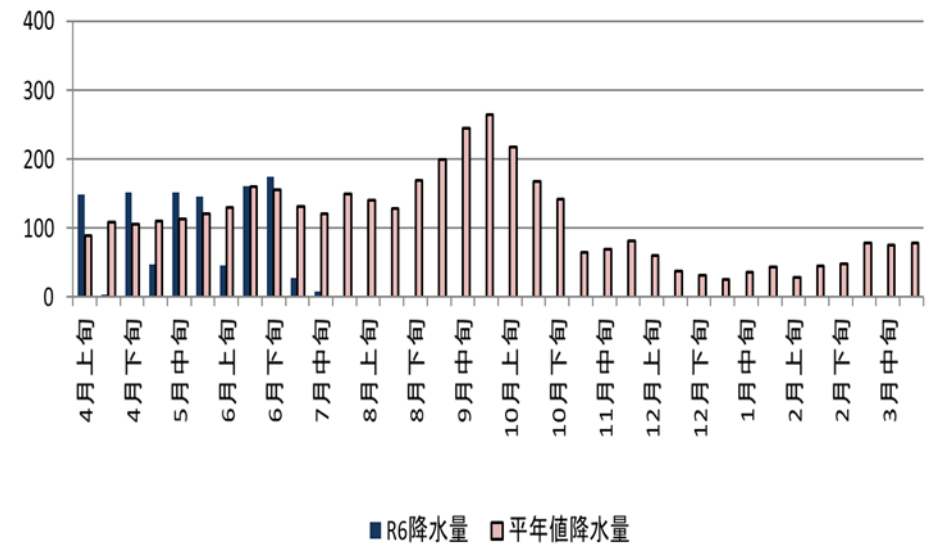
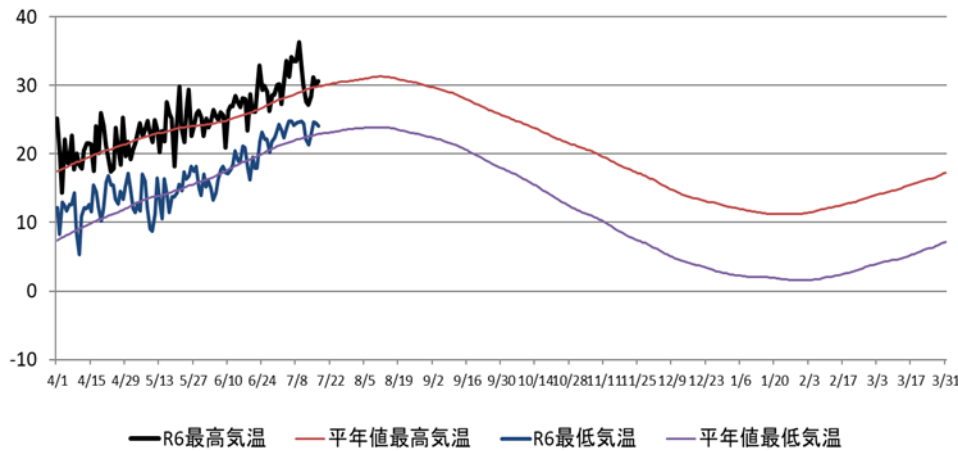
気象の日別推移(気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (7 月 18 日まで)



R6年 气象台(上野)最高・最低気温 降水量



R6年 气象台(尾鷲)最高・最低気温 降水量



6. おしらせ (前回と異なる項目には **NEW** の印があります)

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月25日(木)(済み)	第2回 5月23日(木)(済み)
第3回 6月27日(木)(済み)	第4回 7月25日(木)(今回)
第5回 8月26日(月)	第6回 10月24日(木)
第7回 3月24日(月)	

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。
下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001134365.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたことを「掲載通知」として電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

三重県農薬情報システム

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/mie>

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<https://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>